

## 遠くて近い国“北朝鮮”

東大阪市立玉川中学校 北御門孝文

現在“北朝鮮”として知られている朝鮮民主主義人民共和国（以下北朝鮮）は、日本と国交のない国家である。冷戦の影響で朝鮮が南北に二分され、大韓民国（以下韓国）との国交正常化のときに結んだ日韓基本条約（1965）で、韓国が朝鮮にある唯一の合法政府であることを確認したことも北朝鮮と国交を結べない原因の一つになっている。

北朝鮮への観光目的の入国は日本から中国経由のツアーもあり、比較的容易である。入国は許可制であるので、入国時は旅券の間にビザを挟み、出国時はそのビザを抜く簡素な手続きで済む。旅券にスタンプを押すこともないようだ。しかし、報道・公安関係者には入国が許されない。またビザは事前に申請しなければならず、発給までの時間を要したうえでさらに現地での発給となる。

一般的に情報量も少なく、昨今では拉致や核など緊迫した外交問題が取り上げられることが多く、北朝鮮は暗いイメージの国家像となっているといえよう。加えて、社会主義国家としての北朝鮮がイデオロギー的側面に刺激を与え、社会科教育に困難な場面をもたらしていることは否めない。

## 北朝鮮の自然と産業

北朝鮮は国土のほとんどが亜寒帯気候に属する。首都ピョンヤンが岩手・宮城県境と同緯度であることから冷涼な気候であることがわかる。

国土の土地利用としては、南西部に平野が広がるが、北部はケマ高原を中心として山がちで、韓国と比較して山地が多く見られるのが特徴である。北朝鮮から日本へ、マツタケなどの農産物が輸出されていたが、現在外交政策上輸入されていない。

北朝鮮の耕地面積（1998）は199万2000haで韓国と同規模であるが、そのうち水田が57万ha（韓国は130万ha）と耕地全体の30%に過ぎず、畑作中心である。これらの畑は70%近くが急斜面に作られており、養分を多大に必要とするトウモロコ

シなどの作付けを過剰に行ったため、地力が失われた。また山林を切り開いて急斜面に畑が作られたため、山林は保水力を失い土砂災害が頻発した。エネルギー問題や肥料工場の設備更新の遅れによって、失われた地力を補う化学肥料の生産は滞っている。これらの事象が北朝鮮の食料問題につながっている。

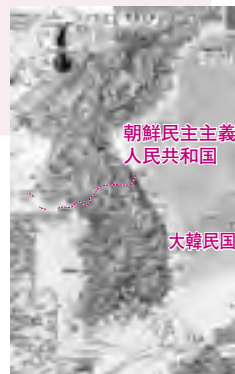
## 北朝鮮の国際関係と産業

日本では国際的に孤立しているイメージのある北朝鮮であるが、現在北朝鮮と国交のある国は161か国と1地域。世界総国数は194か国なので国交のない国の方が少数である。近年ではイタリアと国交を樹立（2000）した。

しかし先進諸国のほとんどと国交がなく、また北朝鮮の主体（チュチュエ）思想<sup>\*</sup>を基としているさまざまな行動が国際的非難を受けている。この状況を鑑みると国際的な立場は不安定といえる。日本とも日朝平壤宣言（2002）により一時関係は改善したが、その後の拉致・核問題などで再び悪化、現在に至る。

北朝鮮は北部の資源を利用した重工業によって、1960年半ばまでは韓国よりも工業化が進んでいた。しかし、技術革新や資源開発の遅れ、国際関係の悪化による輸入エネルギー資源の枯渇により、工業生産は低下した。また、重工業重視の政策により軽工業の発展が遅れ、国民生活に近い消費財は慢性的に不足し生活水準は高いとはいえない。

このような状況を打開しようと、近年北朝鮮も資本主義諸国からの資本に期待し中国の改革開放経済を模倣した。一部地域では市場経済を導入し、合弁企業なども設立されたが、不安定な国際的立場や北朝鮮の政策の急変などにより計画通りに市場経済の導入が進んでいるとはいえない。



「中学校社会科地図 初訂版」p.23～24

<sup>\*</sup>金日成が主張したとされる北朝鮮の基本理念。「革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設を推し進める力もまた人民大衆にある」とされる。